

雅意不社納之間、神事闕怠云々。言語道斷次第也。所詮年貢諸公事以下、如先々可沙汰渡松梅院禪豫代。尙以令難澁者、可被處其科由被仰出也。仍執達如件。

延德元 十月二日 長 秀 在判 爲 規 在判

當所名主沙汰人中

十月二日。幕府、山城北野宮寺領能美郡長崎保の名主沙汰人をして、年貢等を松梅院禪豫代に交付せしむ。

【北野神社長享三年引付】 一〇六三

北野宮寺領加賀國長崎保事、爲嚴重社領之處、百姓等任雅意、年貢等不致沙汰之間、神事及退轉之條、神慮巨測者哉。所詮松梅院禪豫代入部之上者、如先々可沙汰渡之由被仰出也。仍執達如件。

延德元 十月二日 長 秀 在判 爲 規 在判

當所名主沙汰人等中

十月二日。幕府、山城北野宮寺領石川郡西笠間保の名主沙汰人をして、年貢等を松梅院禪豫代に交付せしむ。

【北野神社長享三年引付】 一〇六四

北野宮寺領加賀國西笠間保事、爲嚴重社領之處、近年任雅意、年貢等不致沙汰之條、神事以下闕怠云々。言語道斷次第也。所詮如先々可沙汰渡松梅院禪豫代、更不可有難澁由被仰出也。仍執達如件。

延德元 十月二日 長 秀 在判 爲 規 在判

當所名主沙汰人等中

十月二日。幕府、山城北野宮寺領石川郡豐田保の名主沙汰人をして、年貢等を松梅院禪豫代に交付せしむ。

【北野神社長享三年引付】 一〇六五

北野宮寺領加賀國豐田保事、爲嚴重社領之處、百姓等任雅意、年貢等不致沙汰云々。言語道斷次第也。因茲神事及退轉之條、且神慮巨測者哉。所詮松梅院禪豫代入部之上者、年貢諸公事如先々可沙汰渡之由被仰出也。仍執達如件。

延德元 十月二日 長 秀 在判 爲 規 在判

當所名主沙汰人等中

十月廿一日。後土御門天皇、山城勸修寺に、同寺領江沼郡郡家莊を直務せしめ給ふ。

【宣秀御教書案】 一〇六六

御門跡領加賀國郡家事、任武家下知之(旨カ)永被全直務、彌可令抽天下安全之御祈禱之精(誠カ)給之由、天氣所候也。以此旨可令申入勸修寺給。仍執達如件。

延德元年十月廿一日 左少辨(中御門宮亮) 在判 謹上 大納言法印御房

延德二年 庚戌 紀元二二五〇

七月五日。幕府、神戸某をして、攝津住吉社領加賀有富莊の檢注を行はしむ。

【延德二年將軍宣下記】 一〇六七

住吉社領加賀國有富庄檢注事、早任先例、可被致其沙汰之由所被仰下也。仍執達如件。

延德二年七月五日 右京大夫(細川政元) 神戸 殿

(有富庄の所在は明らかならず。)

閏八月五日。足利義材、中院通世に、江沼郡額田莊及び加納八田莊を安堵せしむ。

【中院文書】 一〇六八

加賀國額田庄・加納八田庄事、早爲直務之上者、任當知行之旨、彌領掌不可有相違之狀如件。

延德貳年潤八月五日 御判(足利義材) 中院宰相中將殿(通世)